

本科

一般教育科

Department of General Education

一般教育は社会人としての教養を養い、各専門学科に必要な基礎学力を培います。また、専門教育と補い合い、学生を、総合的判断力を持った創造性豊かな技術者に育てることを目指しています。教育内容は、3学年まではほぼ高等学校と同じ内容ですが、専門科目の基礎となる数学に多くの時間を充てています。4、5学年では大学の教養課程レベルの内容を扱い、この間に修得した単位は、専攻科進学後や大学3学年編入学後も修得単位として認められています。

1. 社会や文化に広く関心を持ち、より広い視野に立って物事を捉えることができる人間を育成する。
2. 自然科学（数学・物理・化学）に対する基礎的な知識を持った人間を育成する。
3. 社会性と協調性を持ち、自主的に礼儀正しく行動しようとする人間を育成する。
4. 自分の考えを論理的に伝えることのできる基礎的なコミュニケーション能力を持った人間を育成する。

一般教育科教員（高松キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	岡野 寛 OKANO, Hiroshi	ブレ研究, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 物理化学基礎／分析化学, 技術者倫理
	教育学修士	田口 淳 TAGUCHI, Jun	社会Ⅱ, 人文科学Ⅱ, 語学特講Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語）, 表現コミュニケーションⅠ, 科学技術史概論
	修士（体育学）	中瀬 巳紀生 NAKASE, Mikio	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ
	博士（理学）	橋本 典史 HASHIMOTO, Norifumi	数学ⅡA, 数学ⅡC, 化学概論Ⅰ／分析化学
	修士（体育学）	吉澤 恒星 YOSHIKAWA, Kousei	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ
准教授	修士（教育学）	古庄 清宏 KOSHOU, Kiyohiro	英語ⅢA, 科学技術史概論／実践英語, 工業英語
	修士（文化史学）	與田 純 YODA, Jun	社会Ⅰ, 人文科学Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, 科学技術史概論
	Ph.D	佐藤 文敏 SATO, Fumitoshi	数学ⅠB, 数学ⅠD／金融工学入門
講 師	修士（歴史学）	徳永 慎太郎 TOKUNAGA, Shintaro	英語ⅡB, VB, 科学技術史概論
	博士（文学）	野口 尚志 NOGUCHI, Naoshi	国語Ⅱ, 文学特論Ⅰ, 科学技術史概論／文学作品講読
	博士（工学）	立川 直樹 TACHIKAWA, Naoki	ブレ研究, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ／物理化学, 分析化学
	博士（理学）	野田 数人 NODA, Kazuto	工学リテラシー, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ／現代物理学
	修士（教育）	森下 二郎 MORISHITA, Jiro	英語ⅠB, 実践英語, 工業英語, 科学技術史概論
	博士（理学）	上床 隆裕 UETOKO, Takahiro	工学リテラシー, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ／応用物理学
	博士（理学）	桑田 健 KUWATA, Ken	数学ⅡB, 数学ⅡD／数学特論Ⅱ
助 教	博士（文学）	古明地 樹 KOMEIJI, Tatsuki	国語Ⅰ, 文学特論Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, 科学技術史概論
	博士（数理学）	大石 健太 OISHI, Kenta	数学ⅠA, 数学ⅠC／数学特論

- 理 科** 物理、化学の基礎的な学習、実験を通して現代科学の基本的な考え方、自然観を習得する。
将来必要となる理学、工学についての発展した内容を理解する上で土台となる基礎力を養う。
- 数 学** 演習などを通して、微分と積分を中心とした工学分野への応用を見込んだ数学の基礎学力を確実に身につける。
- 国 語** 現代文・古文・漢文を通して、情操を養い、他人の見方や考え方を知る。
また、日本語を正確に理解し使いこなすことができるようにし、表現力を磨く。
- 社 会** 一人の社会人として生きるために必要な基本的知識と、健全な批判力を養成する。そのために地歴と公民の分野の学習を通じて、世界と日本の社会や文化についての理解を深めるとともに、社会科学や人文科学への関心を育む。
- 英 語** 英語による基本的なコミュニケーションができるようにする。そのため、読む、書く、話す、聞くの4技能の基礎的な力を身につける。
さらに、英語を通じて世界の文化、技術、ものの見方などについて理解を深め、国際社会に対する関心を深める。
- 体 育** 様々なスポーツの実践を通して、社会性・協調性を養っていくとともに、課題解決のための実行力を身につける。

■一般教育科教員（詫間キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	理学修士	南 貴之 MINAMI, Takayuki	数学ⅠD, ⅡC, ⅡD, ⅢA, 応用数学特論
	教育学修士	内田 由理子 UCHIDA, Yuriko	社会Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 社会科学Ⅱ, 社会科学Ⅲ／技術者倫理
		有馬 弘智 ARIMA, Hirotooshi	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅲ, 体育Ⅰ, 体育Ⅱ
	博士（文学）	富士原 伸弘 FUJIHARA, Nobuhiro	国語Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 国語Ⅲ, 人文科学Ⅰ・Ⅲ／文学特論
	博士（学術）	橋本 竜太 HASHIMOTO, Ryuta	数学ⅠA, ⅠB, ⅠD, ⅡD
	博士（理学）	上原 成功 UEHARA, Shigenori	数学ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅡD
	MA in Applied Linguistics 修士（文学）	森 和憲 MORI, Kazunori	英語ⅠA, 英語ⅢA
准教授		横山 学 YOKOYAMA, Manabu	保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ, 体育Ⅰ, 体育Ⅱ
	博士（理学）	竹中 和浩 TAKENAKA, Kazuhiro	化学Ⅰ, Ⅱ, 数学ⅠD, ⅡD
	博士（理学）	清水 一紘 SIMIZU, Ikko	物理学Ⅰ, Ⅱ, 数学ⅠD, ⅡD
	修士（英語教授法）	盛岡 貴昭 MORIOKI, Takaaki	英語ⅡA, 英語特論Ⅱ, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ／コミュニケーション英語Ⅰ, Ⅱ
講 師	博士（文学）	田村 昌己 TAMURA, Masaki	表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 社会Ⅱ, 社会科学Ⅰ・Ⅳ／技術者倫理
助 教	博士（理学）	高木 蓮 TAKAGI, Ren	数学ⅠD, ⅡA, ⅡD, ⅢA
	修士（文学）	寺尾 穂乃香 TERAO, Honoka	国語Ⅱ, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 国語Ⅲ, 人文科学Ⅱ, Ⅳ

■教育課程

必修科目（両キャンパス共通）

授業科目		単位数	学年別単位数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
国 語	国語Ⅰ	2	2					留学生対象外 留学生対象
	国語Ⅱ	2		2				
	国語Ⅲ	2			2			
日本語								
社 会	社会Ⅰ	2	2					
	社会Ⅱ	2		2				
数 学	数学ⅠA	2	2					
	数学ⅠB	2	2					
	数学ⅠC	2	2					
	数学ⅠD	2	2					
	数学ⅡA	2		2				
	数学ⅡB	2		2				
	数学ⅡC	2		2				
	数学ⅡD	2		2				
	数学ⅢA	2			2			
	数学ⅢB	2			2			
理 科	物理学Ⅰ	2		2				
	物理学Ⅱ	2			2			
	化学Ⅰ	2	2					
	化学Ⅱ	2		2				
保健・体育	保健・体育Ⅰ	2	2					
	保健・体育Ⅱ	2		2				
	保健・体育Ⅲ	2			2			
外国語	英語ⅠA	2	2					
	英語ⅠB	2	2					
	英語ⅡA	2		2				
	英語ⅡB	2		2				
	英語ⅢA	2			2			
	英語ⅢB	2			2			
表現コミュニケーションⅠ		2	2					
表現コミュニケーションⅡ		2		2				
芸術		2	2					
小 計		62	24	24	14	0	0	



表現コミュニケーションの授業



物理実験室での実験



マルチメディア教室での授業

■主な取り組み

- ・コミュニケーション能力向上のため、プレゼンテーション・ソフト等により発表させています。また、日本語検定等の資格試験受験を勧め、チャレンジする機会を与えています。（国語）
- ・豊かな人間・情操を育てるような対話型学習を取り入れています。また、学生の関心をひく教材を提示しています。（社会）
- ・きめ細かい指導を行い、問題演習を行うことで基礎学力の定着を図っています。また、専門学科との連携を図りつつカリキュラムの見直しをしています。（数学）
- ・基礎力向上のため不断の取り組みをしています。学習到達度試験等に関連して、自主学習の促進とモチベーション向上を図っています。（理科）
- ・スポーツテスト、各実技テストを行うことで、運動能力の維持・向上を図っています。団体行動、ルール遵守を身につけさせ、コミュニケーション能力と問題解決能力を養います。（体育）
- ・TOEIC、英語検定等の資格試験にチャレンジさせています。また、実践的英語運用能力を身につけさせるため英会話セッション等を実施しています。（英語）

選択科目（高松キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
文学特論Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅱ	2				2	※	
人文科学Ⅲ	2				2	※	
社会科学Ⅰ	2				2	※	
社会科学Ⅱ	2				2	※	
社会科学Ⅲ	2				2	※	
化学概論Ⅰ	2				2	※	
化学概論Ⅱ	2				2	※	
体育Ⅰ	1				1		
体育Ⅱ	1					1	
英語ⅣA	2				2	※	
英語ⅣB	2				2	※	
英語ⅤA	2				2	※	
英語ⅤB	2				2	※	
語学特講Ⅰ	2				2	※	
語学特講Ⅱ	2				2	※	
語学特講Ⅲ	2				2	※	
語学特講Ⅳ	2				2	※	
海外英語演習	1				1		
計	37			(1)	5(27)	5(27)	

選択科目（詫間キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
人文科学Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅱ	2				2	※	
人文科学Ⅲ	2					2	※
人文科学Ⅳ	2					2	※
社会科学Ⅰ	2				2	※	
社会科学Ⅱ	2				2	※	
社会科学Ⅲ	2					2	※
社会科学Ⅳ	2					2	※
自然特論	2					2	※
体育Ⅰ	2				2		
体育Ⅱ	2					2	
英語特論Ⅰ	2				2	※	
英語特論Ⅱ	2					2	※
中国語Ⅰ	2				2	※	
中国語Ⅱ	2					2	※
海外英語演習	1				1		
教育支援活動	1			1			
計	32	(1)	(1)	(2)	14(2)	16(2)	

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。
計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で習得できる単位（外数）

■主な実験等設備

	室 名	主 な 設 備
高松キャンパス	物理実験室	分光器、誘導コイル
	化学実験室	スパッタ装置、PHメータ、スクラパー付きドラフトチャンバー
	語学演習室	46 ブース、ラップトップコンピュータ46台、e-learning
詫間キャンパス	物理実験室	視聴覚機器
	化学実験室	超純水製造装置、スクラパー付きドラフトチャンバー、器具乾燥機
	マルチメディアラーニング・ラボ	48 ブース（BYOD）、e-learning



外国人による英語授業



一般教育棟（高松キャンパス）



マルチメディア棟（詫間キャンパス）

創造基礎工学系〔高松キャンパス〕

機械工学科 Department of Mechanical Engineering

私たちの身近にあるあらゆる工業製品は高度な機械技術の産物であり、機械技術者の果たすべき役割は広く、かつ、重要です。そして、近年の技術革新により、コンピュータとエレクトロニクスが機械技術分野にも深く浸透しています。

そこで、機械工学科では、「力学を中心とした機械工学の知識とそれを応用した設計力を柱として、コンピュータ支援工学や電気工学などの周辺技術を身につけた、幅広い産業分野において創造力を発揮できる機械技術者を育成する」ことを目的としています。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

機械工学科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 技術者としての社会に対する責任や倫理観について考えることができる。
2. 数学、物理学などの自然科学や機械工学に関する学習を継続的に行うことができる。
3. 技術的問題の解決に自主的、継続的に取り組むことができる。
4. 記述、説明、発表、あるいは討論のため、論理的に思考し、自分の考えを効果的にプレゼンテーションすることができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーにて掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 国語や社会をはじめとする一般科目および技術者倫理に関する科目
2. 数学や物理および機械分野の基礎（力学、加工・設計・製図、情報・解析、電子・制御）に関する科目
3. 課題解決のための実験・実習に関する科目および卒業研究、校外実習
4. コミュニケーションに関する科目および卒業研究、校外実習

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定します。

卒業研究は日常の取り組み、論文、中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	小島 隆史 KOJIMA, Takafumi	機械工学演習Ⅰ・Ⅱ、熱力学、伝熱工学、熱機関、機械工学実験Ⅱ／内燃機関工学、工学実験・実習Ⅱ
	博士（工学）	吉永 慎一 YOSHINAGA, Shinichi	プログラミング基礎、電気工学、電子工学、応用数学Ⅲ、機械工学実験Ⅱ／工学実験・実習Ⅱ
	博士（工学）	上代 良文 JODAI, Yoshifumi	機械工学演習Ⅱ、機械設計製図Ⅱ、CADⅡ、水力学、流体力学Ⅰ・Ⅱ、機械工学実験Ⅰ
准教授	博士（工学）	徳田 太郎 TOKUDA, Taro	機械要素設計Ⅰ・Ⅱ、CADⅠ・Ⅱ／材料強度学特論、計算力学特論
	博士（工学）	高橋 洋一 TAKAHASHI, Yoichi	加工工学、創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、機械工学実験Ⅰ／信頼性工学
	博士（工学）	前田 祐作 MAEDA, Yusaku	機械機設計製図Ⅰ、材料力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、弾性力学、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／弾塑性力学、工学実験・実習Ⅱ
講 師	博士（工学）	木村 祐人 KIMURA, Yuto	工学リテラシー、数値計算法、工業力学Ⅱ、機構学、計算力学、科学技術英語、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／数値解析特論、工学実験・実習Ⅱ
	博士（工学）	高谷 秀明 TAKATANI, Hideaki	機械工学演習Ⅰ・Ⅱ、振動工学、機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／振動工学特論
助 教	博士（工学）	藤岡 玄紘 FUJIOKA, Genko	工業力学Ⅰ、応用数学Ⅱ、創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、材料学

教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2					◎
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2			2		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	機械工学演習Ⅰ	1	1				
	機械工学演習Ⅱ	1	1				
	工業力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅱ	2			2		
	熱力学	2			2		
	水力学	2			2		
	振動工学	2				2	
	加工学	2		2			
	機械要素設計Ⅰ	1		1			
	機械要素設計Ⅱ	2			2		
	材料学	2		2			
	電気工学	1			1		
	制御工学Ⅰ	1				1	
	プログラミング基礎	2	2				
	数値計算法	2		2			
	機械設計製図Ⅰ	2	2				◎
	機械設計製図Ⅱ	2	2				◎
	CADⅠ	3		3			◎
	創造基礎工作実習Ⅰ	3	3				◎
	創造基礎工作実習Ⅱ	3		3			◎
	創造基礎工作実習Ⅲ	2		2			◎
	機械工学実験Ⅰ	3			3		◎
	機械工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	8				8	
小計		64	8	8	18	14	16
選択科目	応用数学Ⅲ	2				2	※
	工業力学Ⅱ	2				2	※
	材料力学Ⅲ	2				2	※
	弾性力学	2				2	※
	伝熱工学	2				2	※
	流体力学Ⅰ	2				2	※
	電子工学	2				2	※
	コンピュータ工学	2				2	※
	機構学	2				2	※
	計算力学	2				2	※
	CADⅡ	4				4	
	科学技術英語	2				2	※
	熱機関	2				2	※
	制御工学Ⅱ	2				2	※
	流体力学Ⅱ	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅲ	1				1	
	特別講義Ⅳ	1				1	
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4	
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
小計		52	1	1	5	4(23)	18(23)
開設単位数合計		116	9	9	23	18(23)	34(23)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

主な実験設備

室名	主な設備
工作実験室	超精密加工機、ワイヤ放電加工機、ホプ盤、精密旋盤、切削動力計
工作測定室	非接触式三次元測定機、表面粗さ測定機、微小硬度計、万能投影機
材料力学実験室	300kN 万能材料試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強化加工装置
振動工学実験室	動電形加振機、振動計、FFTアナライザ
流体・風洞実験室	風速 40m/s 低乱風洞装置、熱線流速計、流体力学実験装置
熱工学実験室	熱交換器実験装置
内燃機関実験室	内燃機関性能試験装置、エンジン燃焼解析装置、排気ガス分析装置
制御工学実験室	DCサーボモータ実験装置、オシロスコープ
電子工学実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、直流電源
実習工場	旋盤、CNC 旋盤、マシニングセンタ、フライス盤、研削盤、ボール盤



トマト収穫ロボットによる収穫実験



実習工場



CAD 室での授業風景



ソーラーカーとエコカー

主な取り組み

機械工学科では、座学や多くの実験実習を学ぶだけでなく、コミュニケーション力を有した実践的な機械技術者の育成を目指し、各種マシンを設計製作し大会に出場することを積極的に推進しています。例として、上に示した写真はソーラーカーレースとエコカーレースの全国大会の様です。これまで、素晴らしい成績を収めています。

電気情報工学科 Department of Electrical and Computer Engineering

電気情報工学科では、技術の高度化が進展する社会の中でも活躍し続けることのできる電気電子技術者及び情報通信技術者の育成を目指しています。そのため、数学・物理などを中心とした基礎学理や専門の基礎をじっくりと学び、その上に専門応用技術を学習し、技術者となるための基礎を習得します。これらと共に回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした各種実験・実習などを行い、技術者にとって必要な実践力や創造性、ならびに、ものづくりを行っていく上で欠かせないチームワークや協調性を身につけていきます。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

電気情報工学科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定します。

1. 技術者としての責任感、倫理観を有し、技術の発展が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。
2. 数学、物理等の工学分野の基礎知識と電気情報分野の基礎知識に基づいた専門応用能力を身につけ、急速な技術の発展に対応できる。
3. 自主的に課題に取り組む姿勢と生涯学習能力を身につけ、互いに協力して課題に取り組むことができる。
4. レポートやプレゼンテーションの作成において、論理的な記述・表現ができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

電気情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. リベラルアーツおよび技術者倫理に関する科目群：語学、人文科学、社会科学などの一般科目および技術者倫理に関する科目
2. 数学、物理等の工学分野の基礎知識と電気情報分野の基礎知識に関する科目群：
 - （自然科学分野）数学、物理、化学
 - （電気電子系分野）電気回路、電磁気学、電子回路、計測など
 - （情報系分野）プログラミング、ソフトウェア、計算機工学、情報通信ネットワークなど
3. 課題解決能力を育む実験・実習に関する科目群：実験実習に関する科目、卒業研究、設計科目、校外実習など
4. 論理的表現能力育成のための科目群：設計科目や卒業研究など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定します。

卒業研究は日常の取組み、論文、中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	重田 和弘（兼任）* SHIGETA, Kazuhiro	情報通信ネットワーク／情報通信工学、画像処理工学
	博士（工学）	辻 正敏 TSUJI, Masatoshi	電子回路、回路設計（電子）／マイクロ波工学、集積回路
	博士（工学）	漆原 史朗 URUSHIHARA, Shiro	計測工学、電気回路、制御工学／現代制御理論
	博士（工学）	太良尾 浩生 TARAO, Hiroo	電気基礎、電磁気学／環境電磁工学
	博士（工学）	中村 厚信 NAKAMURA, Atsunobu	電子工学基礎、電子デバイス、電気電子材料
准教授	博士（工学）	村上 幸一 MURAKAMI, Yukikazu	情報処理基礎、情報数学基礎、オペレーティングシステム／知識工学
	博士（工学）	柿元 健 KAKIMOTO, Takeshi	情報数学、アルゴリズム、統計データ処理／プロジェクト管理論
	博士（工学）	山本 雅史 YAMAMOTO, Masashi	電気物理、電気電子材料／電子物性、半導体工学
	博士（情報学）	北村 大地 KITAMURA, Daichi	応用数学、論理回路、回路設計（論理）／デジタル信号処理
講 師	博士（工学）	吉岡 崇 YOSHIOKA, Takashi	応用数学、エネルギー変換工学／パワーエレクトロニクス
助 教	博士（情報学）	雛元 洋一 HINAMOTO, Yoichi	工学リテラシー、信号処理、創造工学実験実習

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2					○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2			2		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電気情報基礎Ⅰ	4	4				
	電気情報基礎Ⅱ	4		4			
	電気基礎	4		4			
	電子工学基礎	4		4			
	電磁気学Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅰ	2			2		
	論理回路	2			2		
	情報処理基礎	4		4			
	電子回路Ⅰ	1			1		
	情報数学	1			1		
	創造工学実験実習Ⅰ	2	2				○
	創造工学実験実習Ⅱ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅰ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅱ	4			4		○
	電気情報工学応用実験	4				4	
選択科目	卒業研究	8				8	
	回路設計	2				2	
	小計	64	8	8	18	14	16
	半導体物理	2				2	※
	電磁気学Ⅱ	2				2	※
	電気回路Ⅱ	2				2	※
	計測工学	2				2	※
	電気電子材料	2				2	※
	電子回路Ⅱ	2				2	※
	電子回路Ⅲ	2				2	※
	エネルギー変換工学	2				2	※
	制御工学	2				2	※
	電子デバイス	2				2	※
	通信工学	2				2	※
	情報通信ネットワーク	2				2	※
	アルゴリズム	2				2	※
	計算機アーキテクチャ	2				2	※
	オペレーティングシステム	2				2	※
	信号処理	2				2	※
	情報・符号理論	2				2	※
	知能情報処理	2				2	※
選択科目	数値解析	2				2	※
	統計データ処理	2				2	※
	科学技術英語	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅲ	1				1	
	特別講義Ⅳ	1				1	
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4	
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4					
	小計	62	1	1	5	4(45)	6(45)
	開設単位合計	126	9	9	23	18(45)	22(45)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校卒業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
制御システム実験室	3軸産業用ロボット、二慣性共振系実験装置、3.7kW級AC汎用モータ、対向負荷試験装置
電磁環境実験室	平等磁界暴露装置、磁界測定器、ワークステーション
パワーエレクトロニクス実験室	ACサーボ駆動ボールねじシステム、インバータ駆動誘導モータ制御システム
ソフトウェア工学実験室	マルチコアCPU計算機、統計解析ソフトウェア
無響室	計測用スピーカ、マイク
音響実験室	音響測定装置、超音波検出器、数値計算ソフトウェア
共同研究スペース(メディア情報処理研究室)	マルチコアCPU計算機、GPU計算機、信号処理ソフトウェア
電気情報工学コース実験室(材料研究室)	大気圧プラズマ製膜装置、PL測定装置、波長可変VUV/VISレーザ分光システム、放電プラズマ生成装置、QMS、TMP式高真空装置、HW-CVD装置
ゼミ・談話室(知能情報研究室)	アイマークレコーダー、生体情報収集装置、画像解析サーバー
電子工学実験室	オシロスコープ、発振器、直流電源、デジタル周波数計、パルス回路実習装置
計測・制御実験室	SCRインバータ、電気機器実習装置、カーブトレーサ、ロジックアナライザ、プリント基板加工機
情報通信工学実験室	論理回路実習装置、半導体素子実習装置、演算回路実習装置、AD/DA変換実習装置



座学 (論理回路)



実験実習



情報処理実習



回路設計 (電子回路)

■主な取り組み

電気情報工学科では「組込み技術」を軸とした実験・実習を行っています。特に組込み技術によるシステム開発では、ソフトウェアの知識だけではなく、ハードウェアの知識も必要とされることから、本科では回路設計科目などにより、ハードウェア技術の教育にも力を入れています。また最終的には、総合的な組込み制作実習課題を実施することにより、技術者として必要な実践力や創造性を育成する教育を行っています。

これら学生教育に加え、組込み技術セミナーや専門講習会など各種セミナーを開催し、地域技術者教育にも貢献しています。

機械電子工学科

Department of Electro-Mechanical Systems Engineering

機械工学、電気電子工学及びコンピュータ制御技術の融合した技術分野をメカトロニクスと呼びます。メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの設計・開発、生産・製造、運用・保守、検査・修理など（以上を総称して「モノづくり」という）に携わる実践的技術者の育成を目的にしています。

社会の要求に合わせた機械システムに係わるモノづくりのために、複数の技術分野にわたる基礎知識を活かし、課題を発見し解決する能力や、チーム作業における協調性やコミュニケーション能力を身につけ、全体を見渡してとりまとめを行う技術者の育成を目指します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

機械電子工学科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 社会や文化に関する教養を身につけ、機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考えることができる。
2. メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの開発・生産に携わることができる。
3. メカトロニクス分野の知識を基に、与えられた課題に対し、創造性を発揮して問題解決することができる。
4. 論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち、社会性・協調性を発揮し行動できる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

機械電子工学科では、ディプロマ・ポリシーにて掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 一般教養と技術者倫理：国語、社会、人文科学、社会科学、技術者倫理を扱う専門科目など
2. 理数系基礎：基礎数学、微分積分、機械電子数学、物理、基礎物理学、化学など
メカトロニクス：機械分野（製図、機械設計工学、材料力学、熱流体工学、加工学基礎、機械材料学など）
電気電子分野（電気回路、電子回路など）
制御・情報分野（制御工学、情報処理など）
3. 課題解決能力育成：基礎実験実習、機械電子工学実験、卒業研究など
4. コミュニケーション：技術科学表現、機械電子工学実験、英語、保健・体育など

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定します。

卒業研究は日常の取り組み、論文、中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定します。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教授	博士（工学）	徳永 秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	情報処理A・B, 統計解析／最適化論
	博士（材料科学）	相馬 岳 SOUMA, Takeshi	機械材料学Ⅰ・Ⅱ, 加工学基礎, 創造機械電子基礎実験実習Ⅱ／エネルギー工学特論
	博士（工学）	嶋崎 真一 SHIMASAKI, Shin'ichi	応用数学Ⅱ, 熱工学Ⅰ・Ⅱ, 流体工学Ⅰ・Ⅱ, 機械計測／伝熱工学特論
	博士（工学）	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	メカトロニクス基礎Ⅱ, 材料力学基礎Ⅰ・Ⅱ, 機械電子工学実験Ⅰ／先端接合工学
准教授	博士（工学）	由良 諭 YURA, Satoshi	メカトロニクス基礎Ⅰ, 電気電子回路Ⅰ, 創造機械電子基礎実験実習Ⅲ, メカトロニクスシステム設計, 電磁気学／制御工学特論Ⅱ
	博士（医学）	石井 耕平 ISHII, Kohei	メカトロニクス基礎Ⅰ, 創造工学基礎実験実習Ⅲ, 機械力学／生体工学
講師	博士（工学）	津守 伸宏 TSUMORI, Nobuhiro	メカトロニクス基礎Ⅲ, 創造機械電子基礎実験実習Ⅰ, 電子計測, センサ工学／光工学
	博士（工学）	山下 智彦 YAMASHITA, Tomohiko	メカトロニクス基礎Ⅱ, 創造機械電子基礎実験実習Ⅱ・Ⅲ, 電磁気学Ⅰ, 電気電子回路Ⅱ, 工学実験・実習Ⅰ
	博士（工学）	門脇 惇 KADOWAKI, Jun	創造機械電子基礎実験実習Ⅰ, 工業力学, メカトロニクス基礎Ⅲ, 機械設計工学
助教	博士（工学）	川上 裕介 KAWAKAMI, Yusuke	システム制御Ⅰ・Ⅱ, 機械電子工学実験Ⅱ／制御工学特論Ⅰ, 情報処理基礎

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				◎
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2				2	
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電磁気学Ⅰ	2		2			
	加工学基礎	2	2				
	工業力学	2		2			
	材料力学基礎Ⅰ	2		2			
	機械設計工学	2			2		
	機械材料学Ⅰ	2			2		
	熱工学Ⅰ	1			1		
	流体工学Ⅰ	1			1		
	電気電子回路Ⅰ	2		2			
	情報処理基礎	2		2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3				図学を含む
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3	3				
	メカトロニクス基礎Ⅲ	3		3			
	メカトロニクスシステム設計	2			2		
	システム制御工学Ⅰ	2			2		
	技術科学表現演習	1		1			
	創造機械電子基礎実験実習Ⅰ	3	3				◎
	創造機械電子基礎実験実習Ⅱ	3	3				◎
選択科目	創造機械電子基礎実験実習Ⅲ	2		2			◎
	機械電子工学実験Ⅰ	4			4		◎
	機械電子工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
	小計	64	8	8	18	14	16
	材料力学基礎Ⅱ	2			2		※
	機械材料学Ⅱ	2			2		※
	熱工学Ⅱ	2			2		※
	流体工学Ⅱ	2			2		※
	電気電子回路Ⅱ	2			2		※
	情報処理A	2			2		※
	情報処理B	2			2		※
	システム制御工学Ⅱ	2			2		※
	機械力学	2			2		※
	ロボット工学	2			2		※
	機械計測	2			2		※
	統計解析	2			2		※
	科学技術英語	2			2		※
	電磁気学Ⅱ	2			2		※
	半導体工学基礎	2			2		※
	電子計測	2			2		※
	センサ工学	2			2		※
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1	1				
	ブレ研究Ⅲ	1		1			
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4		4			
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
	小計	54	1	1	5	4(27)	16(27)
	開設単位合計	118	9	9	23	18(27)	32(27)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校卒業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

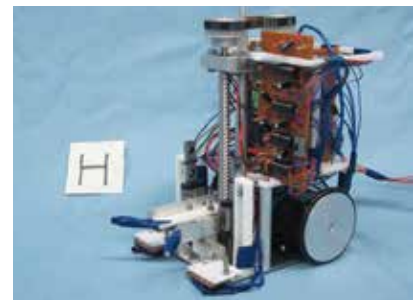
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
材料力学実験室 (恒温恒湿室)	300kN 万能試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
熱工学実験室	高周波誘導炉、エレクトロメータレーザ変位計、高速度ビデオカメラ、熱交換器実験装置
電子工学実験室 / 電子制御実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、電子電圧計、ユニバーサルカウンタ、直流電源、PCB-CAD/CAM
CAD 室	3次元 CAD
演習室	3次元 CAD、3D プリンタ、モーションキャプチャシステム
制御工学実験室	温度制御実験装置
FA 実習室	3D モデリングマシン、立てフライス盤、ボール盤、帯鋸盤
実習工場	旋盤、ボール盤、フライス盤、鋸盤、マシニングセンタ、各種溶接機



メカトロニクスシステム設計



自律型ロボット製作例



機械部品の加工・製作



電子部品の試験・調査

■主な取り組み

低学年（1年生～3年生）の専門科目では、40名クラスを2つに分けた少人数授業（メカトロニクス基礎、実験実習）を取り入れ、論理的な表現力を培う日本語修辭法の授業（技術科学表現演習）を開講します。高学年（4年生・5年生）では、低学年で学んだ知識を実践し課題解決能力を養う実践科目（メカトロニクスシステム設計 / 機械電子工学実験Ⅰ、卒業研究）を開講し、「モノづくり」をキーワードに広く関連分野を学習します。

建設環境工学科 Department of Civil Engineering

建設環境工学科では、土木工学を中心に、安全で安心な公共の建設構造物の設計・施工・計画の基礎的な技術を身につけ、社会的にも大きな課題となっている環境保全技術、防災・減災技術、維持・管理・修繕技術、リサイクル技術、コンピュータ利用技術などの応用分野にも対応できる建設技術者の育成を目指しています。そのために、専門を学ぶための基礎的な学力を土台に専門基礎技術や専門応用技術を学習し、建設環境技術者となるための基礎学力の習得を重視しています。また、専門技術の習得を確実にするために、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目などを学習することにより、建設環境技術者として必要な実践力や創造力を涵養するとともに、発表会や報告会などを通してコミュニケーション能力を身につけていきます。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

建設環境工学科は、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 建設技術者としての責任感と倫理観を有し、建設技術が社会や自然に及ぼす影響を判断できる。
2. 自然科学の基礎知識と土木工学の専門知識を身につけ、技術の発展に対応できる。
3. 自主的に課題に取り組む姿勢を身につけ、互いに協力して課題解決に取り組むことができる。
4. 報告書作成や発表において、論理的な記述・表現ができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

建設環境工学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 人文社会科学及び語学と環境、技術者倫理に関わる科目：社会、国語、英語、環境
2. 工学の基礎科目ならびに土木工学の専門科目：数学、物理、化学、測量、材料、構造、地盤、水理、環境、計画、施工・法規、情報処理、製図
3. 技術習得のための実験・演習科目：実験実習、設計製図、校外実習
4. 総合的能力育成のための科目：創成工学、卒業研究

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

実験・実習の実技系科目群はレポート等の評価結果により認定します。

卒業研究は日常の取組み、論文、中間発表会および卒業研究発表審査会の評価結果に基づいて認定します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	向谷 光彦（兼任）* MUKAITANI, Mitsuhiro	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅳ、土質力学Ⅰ、防災工学／環境防災工学Ⅱ、情報システム
	博士（工学）	荒牧 憲隆 ARAMAKI, Noritaka	工学リテラシー、土質力学Ⅱ・Ⅲ、実験実習Ⅳ、建設マネジメント、応用力学／環境防災工学Ⅰ
	博士（工学）	宮崎 耕輔 MIYAZAKI, Kosuke	測量学Ⅰ、計画学Ⅱ、建設環境実験実習Ⅱ／建設数理計画学、交通計画、実験実習Ⅱ
	博士（工学）	多川 正 TAGAWA, Tadashi	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅴ、土木工学基礎、環境工学Ⅰ・Ⅱ、環境アセスメント／環境倫理・マネジメント
	博士（工学）	柳川 竜一 YANAGAWA, Ryoichi	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅴ、建設情報処理Ⅱ・Ⅲ、河川・海岸工学Ⅰ・Ⅱ、水理学Ⅱ／流体力学特論
准教授	博士（工学）	林 和彦 HAYASHI, Kazuhiko	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅳ、構造力学Ⅰ、土木工学概論、建設設計製図Ⅰ・Ⅱ、建設構造設計学Ⅱ／構造解析学
	博士（農学）	高橋 直己 TAKAHASHI, Naoki	建設環境実験実習Ⅰ・Ⅴ、建設情報処理Ⅰ、水理学Ⅰ、河川・海岸工学Ⅰ・Ⅱ、応用力学、環境工学Ⅲ
	博士（農学）	長谷川 雄基 HASEGAWA, Yuki	建設材料学、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅲ、建設構造設計学Ⅰ／維持管理工学
講 師	博士（工学）	今岡 芳子 IMAOKA, Yoshiko	建設環境実験実習Ⅰ・Ⅱ、土木工学基礎、測量学Ⅰ・Ⅱ、計画学Ⅰ／社会基盤計画学、都市デザイン
助 教	博士（工学）	松本 将之 MATSUMOTO, Masayuki	構造力学Ⅱ・Ⅲ、応用力学、応用数学Ⅲ、建設環境実験実習Ⅰ・Ⅳ／耐震設計学

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	1			1		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	構造力学Ⅰ	2	2				
	構造力学Ⅱ	2		2			
	構造力学Ⅲ	1			1		
	建設構造設計Ⅰ	2			2		
	建設材料科学	2		2			
	土質力学Ⅰ	1		1			
	土質力学Ⅱ	1			1		
	建設マネジメント	1				1	
	水理学Ⅰ	1		1			
	水理学Ⅱ	1			1		
	河川・海岸工学Ⅰ	1		1			
	環境工学Ⅰ	2		2			
	環境工学Ⅱ	1			1		
	建設情報処理Ⅰ	2	2				
	建設情報処理Ⅱ	2		2			
	測量学Ⅰ	2	2				
	計画学Ⅰ	1			1		
	計画学Ⅱ	1				1	
	建設設計製図Ⅰ	1			1		
	建設設計製図Ⅱ	1				1	
	建設環境実験実習Ⅰ	4	4				○
	建設環境実験実習Ⅱ	2		2			○
	建設環境実験実習Ⅲ	4			4		○
	建設環境実験実習Ⅳ	4					○
	建設環境実験実習Ⅴ	3				3	
	土木工学基礎	2	2				
	土木工学概論	1		1			○
	創成工学	1			1		○
	卒業研究	8				8	
小計		64	8	8	18	14	16
選択科目	建設構造設計Ⅱ	2				2	※
	土質力学Ⅲ	2				2	※
	河川・海岸工学Ⅱ	2				2	※
	応用力学	2				2	※
	環境工学Ⅲ	2				2	※
	環境アセスメント	2				2	※
	建設情報処理Ⅲ	2				2	※
	測量学Ⅱ	2				2	※
	防災工学	2				2	※
	応用数学Ⅲ	2				2	※
	科学技術英語	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅲ	1				1	
	特別講義Ⅳ	1				1	
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4	
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4					4
小計		42	1	1	5	4(25)	6(25)
開設単位数合計		106	9	9	23	18(25)	22(25)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
構造工学実験室	構造物可変載荷装置、はり試験装置、50kN万能試験機、サーボ式二軸振動台、二次元実験土槽
材料工学実験室	3000kN全自動圧縮試験機、1000kN万能試験機、構造物静的載荷装置、強制式二軸コンクリートミキサー、コンクリート端面研磨機、凍結融解試験機、各種コンクリート試験機器、コンクリート養生槽
流体工学実験室	傾斜開水路、小型造波水槽、刃型ぜき、管水路、波高計、各種測定器
地盤工学実験室	自動圧密試験機、50kN万能圧縮試験機、繰返し三軸圧縮試験機、汎用大型一面せん断試験機、加圧型変水位透水試験機、B型粘度計、高速度カメラ、各種土質試験機器
環境工学実験室	全有機炭素計、イオンクロマトグラフ、ガスクロマトグラフ、オートクレープ、遠心分離器、超純水製造装置、電子天秤、恒温炉
器材室	GNSS測量システム、地理情報システム、リモートセンシング、トータルステーション、オートレベル、平板、プラニメーター、実体顕鏡



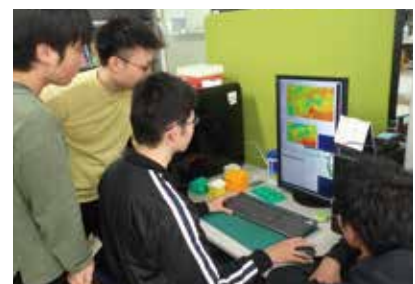
はりのたわみ実験



測量実習



水理実験



数値モデル解析

■主な取り組み

建設環境工学科では、様々な社会のニーズに対応できる技術者を育成するため、専門基礎技術の習得に力を注いでいます。同時に環境・防災・計画・情報処理をテーマとした幅広い知識と技術を習得します。習得事項の達成度を評価する一助として、技術士（一次試験）、測量士・士補、国家公務員一般職、基本情報技術者、環境社会検定などの資格試験に挑戦することを奨励しています。課外活動として、たかまつ土木女子の会、デザイン構造研究会、ACO サークルを行っています。

電子情報通信工学系〔詫間キャンパス〕

通信ネットワーク工学科

Department of Communication Network Engineering

すべての産業・社会活動では今や情報通信が必要不可欠となっています。この社会の神経というべき情報通信を支えるのが、地球上に張り巡らされた電線、光ファイバ、電磁波からなるネットワークと無数のコンピュータです。

通信ネットワーク工学科は、この広くて魅力ある情報通信分野に貢献できる優秀なコミュニケーション技術者、コンピュータネットワーク技術者の養成を目的としています。第一級陸上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士などの国家資格の取得に向けたカリキュラムを編成しています。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

通信ネットワーク工学科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 技術者に必要とされる教養を身につけ、技術の発展が人類の幸せや豊かな社会へ及ぼす影響を考えることができる。
2. 自ら学ぶ力を身につけ、無線・有線通信、コンピュータネットワーク、エレクトロニクスの工学的専門知識とスキルを修得することができる。
3. 目標の実現に向けて、自ら考え、判断し、見通しをもって創造的かつ計画的に実行することができる。
4. 多様性を理解して、他者を尊重し、対話・協働することができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

通信ネットワーク工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。また、卒業時に第一級陸上特殊無線技士の国家資格が取得できるよう科目を配置しています。

1. 国語や社会をはじめとする教養科目および技術者倫理に関する科目
2. 数学や物理および電気・電子分野の基礎・応用（無線・有線通信、コンピュータネットワーク、エレクトロニクス）に関する科目
3. 実験・実習に関する科目および通信工学セミナー・卒業研究
4. コミュニケーションや語学に関する科目および通信工学セミナー・卒業研究

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

ただし、実験・実習の実技系科目群はレポートや発表等の評価結果により認定します。

また、通信工学セミナー・卒業研究は日常の取り組み、報告資料、発表の評価結果により認定します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	井上 忠照 INOUE, Tadaaki	電気回路A, 工学演習, 通信工学セミナー, 電気通信システムA・B, 通信工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	一色 弘三 ISSHIKI, Hiromi	基礎工学演習, 電気回路Ⅰ, 電気電子計測Ⅰ, 基礎工学実験, 通信工学セミナー, 通信工学実験Ⅰ
	博士（工学）	小野 安季良 ONO, Akira	基礎工学実験・実習, 無線通信工学Ⅰ・Ⅱ, 無線工学演習, 通信工学実験Ⅱ/システム制御工学, 通信工学
	博士（工学）	白石 啓一 SHIRAISHI, Keiichi	ディジタル回路Ⅰ, 基礎工学実験, 情報理論, コンピュータネットワークⅠ, 情報セキュリティ, 通信工学実験Ⅱ
准教授	工学修士	真鍋 克也 MANABE, Katsuya	基礎工学実験・実習, 電気磁気学Ⅱ, 電波伝送学Ⅰ・Ⅱ, 通信工学実験Ⅰ, 無線工学演習
	情報工学修士	高城 秀之 TAKAJO, Hideyuki	創造実験・実習, 基礎工学実験・実習, コンピュータネットワークⅡ, ネットワークプログラミング, 通信工学実験Ⅰ/情報ネットワーク論
	博士（工学）	正本 利行 SHOHON, Toshiyuki	基礎電気工学, 基礎工学実験, 電子回路Ⅰ, 通信工学実験Ⅰ/ディジタル信号処理工学
	博士（理学）	桑川 一也 KUMEKAWA, Kazuya	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, データ通信, 通信工学実験Ⅰ・Ⅱ, 応用物理Ⅰ・Ⅱ, 応用数学/グラフ理論
	博士（工学）	川久保 貴史 KAWAKUBO, Takashi	創造実験・実習, 基礎工学実験, 電子工学, 通信法Ⅰ, 電気電子計測Ⅱ, 電子回路Ⅱ
助 教	博士（工学）	浦上 大世 URAKAMI, Taisei	基礎工学演習, 基礎工学実験・実習, 電気磁気学Ⅰ, 工学演習, 通信工学実験Ⅰ/電磁波・光波工学

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅱ	2		2			留学生対象外
	電気回路A	2		2			留学生対象
	電気磁気学Ⅰ	2		2			
	電気磁気学Ⅱ	2			2		
	電子回路Ⅰ	2		2			
	電子回路Ⅱ	2			2		
	電気電子計測Ⅰ	2		2			
	電子工学	2		2			
	無線通信工学Ⅰ	2			2		
	通信工学セミナー	4			4		◎
	基礎工学演習	2	2				
	工学演習	2		2			
	創造実験・実習	4	4				◎
	基礎工学実験・実習	2		2			◎
	基礎工学実験	2		2			◎
	通信工学実験Ⅰ	4			4		◎
	通信工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
小 計		64	8	8	18	18	12
選択科目	応用物理Ⅱ	2				2	※
	情報処理Ⅲ	2			2		※
	電気電子計測Ⅱ	2				2	
	無線通信工学Ⅱ	2				2	※
	電波伝送学Ⅰ	2			2		
	電波伝送学Ⅱ	2				2	※
	電気通信システムA	2			2		※
	電気通信システムB	2				2	※
	通信法Ⅰ	2			2		※
	通信法Ⅱ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	※
	情報理論	2				2	※
	無線工学演習	2			2		
	データ通信	2				2	※
	オプトエレクトロニクス	2				2	※
	情報数学	2				2	※
	情報セキュリティ	2				2	※
	ネットワークプログラミング	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
	AIⅠ	1			1		集中講義
	AIⅡ	1			1		集中講義
	AIⅢ	1			1		集中講義
	AIⅣ	1			1		集中講義
小 計		51	2(4)	2(4)	2(4)	15(5)	25(5)
開設単位数合計		115	10(4)	10(4)	20(4)	33(5)	37(5)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

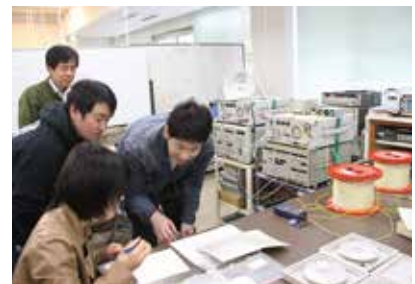
室 名	主 な 設 備
電波暗室	EMILシーバ、CVCF電源、広帯域アンテナ、擬似電源回路網、吸収クランプ、ターンテーブル、ベクトルネットワークアナライザ
電波応用実験室	レーダー、サテライトコンパス、AIS受信機、無線方位測定機、無線送信機、通信型受信機
フォトリソ実験室	サンプリングオシロスコープ、EOコンバータ、OEコンバータ、光パルス試験機
第3基礎通信工学実験室	パルスパターン発生器、符号誤り率検出器、光スペクトルアナライザ
情報ネットワーク演習室	LAN構築演習設備一式(ルータ、ハブ、無線LAN、PC)、マイコン演習器材



ワイヤレス通信実験



レーダ探索



光ファイバ通信



コンピュータネットワーク

■主な取り組み

通信ネットワーク工学科では、コンピュータネットワークの分野で必要とされるエンジニアになるために、コンピュータとコンピュータあるいはコンピュータと端末の間の通信について基礎から応用までの技術を修得できます。インターネット検定、ドットコムマスター(ダブルスター)あるいはシスコ技術者認定 CCNA に合格できるスキルを目指します。

また、無線・有線通信に関する基礎から応用までの技術を修得できます。無線従事者国家資格に関係して「第一級陸上特殊無線技士」「第二級海上特殊無線技士」を取得でき、「第二級陸上無線技術士」国家試験の科目免除を受けられます。また、「工事担任者」国家試験の科目免除を受けられます。

電子システム工学科 Department of Electronic Systems Engineering

エレクトロニクス、メカトロニクス、情報通信技術（ICT）の発展に伴い、エレクトロニクスの基礎から情報通信、コンピュータ、半導体デバイス、ロボット工学までの幅広い技術やそれらが融合した技術を持ったロボットエンジニア、デバイスエンジニアが嘱望されています。

電子システム工学科では、電子工学の基礎からロボット工学、半導体デバイス工学を中心に、最先端の人工知能（AI）技術など幅広い分野の科目を自分で選択し勉強します。また授業と「ものづくり」中心の創造実験を効果的に組み合わせ、楽しみながら創造性豊かで個性的なロボット・デバイスエンジニアの育成を目指します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

電子システム工学科では、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 技術者に必要とされる教養を身に付け、技術の発展が人類の幸せや豊かな社会へ及ぼす影響を考えることができる。
2. 自ら学ぶ力を身に付け、回路、半導体、コンピュータ、制御などのデバイスやロボットに関する工学的専門知識とスキルを修得することができる。
3. 目標の実現に向けて、自ら考え、判断し、見通しをもって創造的かつ計画的に実行することができる。
4. 多様性を理解して、他者を尊重し、対話・協働することができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

電子システム工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 国語や社会をはじめとする教養科目および技術者倫理に関する科目
2. 数学や物理、化学および電気・電子分野の基礎・応用（回路、半導体・電子デバイス、コンピュータ・プログラミング、制御・システム、通信）に関する科目
3. 実験・実習に関する科目および電子システムセミナー・卒業研究
4. コミュニケーションや語学に関する科目および電子システムセミナー・卒業研究

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

ただし、実験・実習の実技系科目群はレポートや発表等の評価結果により認定します。

また、電子システムセミナー・卒業研究は日常の取組み、報告資料、発表の評価結果により認定します。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教授	博士（工学）	三崎 幸典 MISAKI, Yukinori	電子工学, 基礎工学実験/知的財産権
		矢木 正和 YAGI, Masakazu	半導体工学, オプトエレクトロニクス, 工学実験Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士（工学）	月本 功 TSUKIMOTO, Isao	デジタル回路Ⅱ, 電子回路Ⅱ, 工学実験Ⅰ・Ⅱ/電子回路特論, 計測工学持論
	博士（工学）	三河 通男(兼担)* MIKAWA, Michio	基礎電気工学, 電子回路Ⅰ, 電気通信システムA, データ通信, 工学実験Ⅱ, 半導体デバイス工学
	修士（教育学）	ジョンストン・ロバート・ウェストン JOHNSTON, Robert Weston	創造実験・実習, 基礎工学実験, 電子システム特講, 情報処理Ⅲ/工業英語, 機械学習
	博士（工学）	清水 共 SHIMIZU, Tomo	電気回路Ⅰ, 電子回路Ⅰ, 応用物理Ⅱ, 電子物性工学, 工学実験Ⅰ・Ⅱ/量子力学
	博士（工学）	森宗 太郎 MORIMUNE, Taichiro	電気磁気学Ⅰ・Ⅱ, 基礎工学実験, センサ工学, 電子材料工学, 工学実験Ⅱ/応用電子物性工学
	博士（工学）	岩本 直也 IWAMOTO, Naoya	創造実験・実習, 電気回路Ⅱ・Ⅲ, 情報処理Ⅱ, 工学実験Ⅱ
講師	博士（工学）	大西 章也 ONISHI, Akinari	デジタル回路Ⅰ, 基礎工学実験, 応用数学, 制御工学Ⅱ, 工学実験Ⅱ
	博士（工学）	吉岡 源太 YOSHIOKA, Genta	デジタル回路Ⅱ, 情報処理Ⅰ, 基礎工学実験・実習, 制御工学Ⅰ, システム工学

*地域人材開発本部専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2		2	2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅱ	2		2			留学生対象外 留学生対象
	基礎電気回路	4		4			
	電気磁気学Ⅰ	2		2			
	電気磁気学Ⅱ	2			2		
	電子工学	2		2			
	電子回路Ⅰ	2		2			
	電子回路Ⅱ	2			2		
	半導体工学	2			2		
	半導体デバイス工学	2				2	
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	電子計測	2				2	
	制御工学Ⅰ	2			2		
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	電子システムセミナー	4			4		◎
	基礎工学演習	2	2				◎
	創造実験・実習	4	4				◎
選択科目	基礎工学実験	2	2				◎
	基礎工学実験	4		4			◎
	工学実験Ⅰ	4			4		◎
	工学実験Ⅱ	4				4	◎
	卒業研究	8				8	
	小 計	70	8	8	18	20	16
	小計(留学生)	72	8	8	20	20	16
	応用物理Ⅱ	2			2	2	※
	電気回路Ⅲ	2				2	※
	電子物性工学	2				2	※
	オプトエレクトロニクス	2				2	※
	電子材料工学	2				2	※
	制御工学Ⅱ	2				2	※
	ロボット工学	2				2	※
	センサ工学	2				2	※
	電子システム特講	2			2		※
	情報システム	2			2		※
	電気通信システムA	2			2		※
	情報処理Ⅲ	2			2		※
	データ通信	2				2	※
	画像工学	2				2	※
	システム工学	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
	AIⅠ	1			1		集中講義
	AIⅡ	1			1		集中講義
	AIⅢ	1			1		集中講義
	AIⅣ	1			1		集中講義
	小 計	43	2(4)	2(4)	2(4)	11(5)	21(5)
	開設単位合計	113	10(4)	10(4)	20(4)	31(5)	37(5)
	開設単位合計(留学生)	115	10(4)	10(4)	22(4)	31(5)	37(5)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
共通実験室	液晶チューナブルフィルタ、冷却 CCD カメラ、マルチスペクトルイメージングシステム、ハイパースペクトルカメラ
計測工学実験室	電源電流テストによる開放故障検査装置、オシロスコープ、電流プローブ
計算機工学実験室	オシロスコープ、放射線検出器、アナログ波形計測処理システム
回路設計実験室	光電子分光装置、分光光度計、有機薄膜作製装置、光干渉型膜厚計、レーザ薄膜加工装置、原子間力顕微鏡
光エレクトロニクス実験室	蛍光分光光度計、量子効率測定システム、回折格子分光器、He-Cd レーザ、Ar イオンレーザ、極低温冷凍機
電子工学実験室	赤外線サーモグラフィ、汎用 3D プリンタ、3D スキャナ、卓上電子顕微鏡、無散瞳眼底カメラ、パルスオキシメータ
材料工学実験室	レーザ蒸着装置、スパッタリング装置、ホール効果測定装置
プラズマ焼結実験室	X 線回折装置、放電プラズマ焼結機



マインドストームを用いたロボット作製実験 (1・2年)



英語による電気回路基礎実験 (3年)



VHDL によるデジタル回路作製実験 (5年)



地域連携型卒業研究 (5年)

■主な取り組み

電子システム工学科の Keyword は「ものづくり」。低学年の楽しみながら工学に興味を持つための工学導入教育、授業と効果的にリンクした創造実験・実習、高学年での困難な問題に粘り強く取り組んで解決する問題解決能力を養う少人数設計製作実験、卒業研究では最先端の「ものづくり」に挑戦します。また実験実習科目や基礎専門科目でグローバル教育を積極的に取り入れ世界で活躍できるエンジニアを目指します。

また課外活動においても電子システム工学科が中心となって、ロボットコンテストやディープラーニングコンテストに出場、好成績を獲得するなど、「ものづくり」の活動を積極的に推進しています。

「情報」それは人と計算機をつなぐもの

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成します。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステム、ネットワークを利用するシステムに対して、工学的な手法によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成を目指します。

また、画像や音声を利用したソフトウェアの開発やコンピュータシステムを構築できる情報システムエンジニア、ブロードバンド・インターネットを活用したソフトウェアの開発やコンピュータネットワークを構築できるネットワークエンジニアを育てます。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）（学習・教育到達目標）

情報工学科では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 技術者に必要とされる教養を身につけ、技術の発展が人類の幸せや豊かな社会へ及ぼす影響を考えることができる。
2. 自ら学ぶ力を身につけ、情報工学に関する基礎から応用までの工学的専門知識とスキルを修得することができる。
3. 目標の実現に向けて、自ら考え、判断し、見通しをもって創造的かつ計画的に実行することができる。
4. 多様性を理解して、他者を尊重し、対話・協働することができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた各能力を育成するために、以下の科目群を用意しています。

1. 国語や社会をはじめとする教養科目および技術者倫理に関する科目
2. 数学や物理および情報分野の基礎・応用（情報処理、コンピュータシステム、コンピュータネットワーク、電気・電子）に関する科目
3. 実験・実習に関する科目および情報工学セミナー・卒業研究
4. コミュニケーションや語学に関する科目および情報工学セミナー・卒業研究

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとします。

ただし、実験・実習の実技系科目群はレポートや発表等の評価結果により認定します。

また、情報工学セミナー・卒業研究は日常の取り組み、報告資料、発表の評価結果により認定します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目 [本科 (準学士課程) / 専攻科 (学士課程)]
教 授	博士 (工学)	宮武 明義 MIYATAKE, Akiyoshi	情報処理Ⅰ, 基礎工学実験・実習, 工学実験Ⅱ, システムソフトウェア/アルゴリズムとデータ構造, 応用ネットワークプログラミング
	博士 (工学)	徳永 修一 TOKUNAGA, Shuichi	基礎工学演習, 創造実験・実習, 通信理論, 工学実験Ⅱ, データベース/画像処理工学, オブジェクト指向プログラミング
	博士 (工学)	河田 純 KAWATA, Jun	基礎電気工学, 基礎工学演習, 電気回路Ⅰ, 基礎工学実験, 工学実験Ⅰ, 電気磁気学
	博士 (工学)	金澤 啓三 KANAZAWA, Keizo	基礎工学演習, 創造実験・実習, ソフトウェア設計論, 基礎工学実験, 画像工学/マルチメディア工学
	博士 (エネルギー科学)	川染 勇人 KAWAZOME, Hayato	創造実験・実習, 基礎情報工学, 応用物理Ⅰ・Ⅱ, 数値解析
准教授	修士 (工学)	近藤 祐史 KONDOH, Yuji	計算機アーキテクチャ, コンパイラ, 情報構造論, 基礎工学実験, 工学実験Ⅱ, 情報システム
	博士 (理学)	奥山 真吾 OKUYAMA, Shingo	応用数学, 確率統計, 基礎工学実験, 情報数学/工業数学
	博士 (工学)	ティン ティー ラー TIN HTAY HLAING	情報構造論, 工学実験Ⅱ/アルゴリズムとデータ構造
	博士 (工学)	篠山 学 SASAYAMA, Manabu	情報処理Ⅰ, 基礎工学実験・実習, 工学実験Ⅰ, システムプログラミング, 人工知能Ⅱ/データベース設計
講 師	博士 (工学)	宮崎 貴大 MIYAZAKI, Takahiro	デジタル回路Ⅰ・Ⅱ, 情報処理Ⅱ, 工学実験Ⅰ, 人工知能Ⅰ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電子回路Ⅰ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	基礎情報工学	2		2			
	計算機アーキテクチャ	2		2			
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	ソフトウェア設計論	4		4			
	通信理論	2			2		
	情報構造論	2			2		
	コンパイラ	2			2		
	情報工学セミナー	6			6		◎
	基礎工学演習	2	2				
	情報工学演習	2		2			留学生対象
	創造実験・実習	4	4				◎
	基礎工学実験・実習	2		2			◎
	基礎工学実験	2		2			◎
	工学実験Ⅰ	4			4		◎
	工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
	小 計	66	8	8	18	20	12
	小計(留学生)	68	8	8	20	20	12
選択科目	応用物理Ⅱ	2				2	※
	情報数学	2				2	※
	数値解析	2			2		※
	電気磁気学	2			2		※
	半導体工学	2				2	※
	システム工学	2				2	※
	システムプログラミング	2			2		※
	システムソフトウェア	2				2	※
	情報システム	2			2		※
	人工知能Ⅰ	2			2		※
	人工知能Ⅱ	2				2	※
	画像工学	2				2	※
	データベース	2				2	※
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	※
	情報セキュリティ	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
	AIⅠ	1			1		集中講義
	AIⅡ	1			1		集中講義
	AIⅢ	1			1		集中講義
	AIⅣ	1			1		集中講義
	小 計	45	2(4)	2(4)	2(4)	13(5)	21(5)
	開設単位数合計	111	10(4)	10(4)	20(4)	33(5)	33(5)
	開設単位数合計(留学生)	113	10(4)	10(4)	22(4)	33(5)	33(5)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
制御回路実験室	3D入出力装置(3Dスキャナ、切削RPマシン)、3D CAD・CAMソフトウェア
基礎工学実験室	電子回路教育用設計・試作プラットフォーム、LabVIEW、電子回路シミュレータ
ネットワーク応用実験室	ネットワーク技術者育成実験システム(ルータ、L2、L3スイッチ)
知識情報処理実験室	大容量テキスト解析用サーバ
ICTラボ	80型タッチディスプレイ
資料室	AI学習用サーバ
画像情報処理実験室	組込み技術育成ロボット教材
共同利用実験室	3Dコンテンツ作成システム



デジタル回路実験(3年)



ネットワークシステムインテグレーション(4年)



3Dコンテンツの制作(5年)



プログラミングコンテスト

■主な取り組み

情報工学科は学生活動の支援を第1に考え、試験前と試験中の放課後に「放課後学習会」(学生からの質問や進路相談、授業の補講、追実験、卒業研究などに本科教員が対応)、「公開面接練習会」(5年生を対象に本科教員が行う模擬面接)、「進路ガイダンス」(3、4年生を対象に進学・就職が内定した5年生の体験談や心構えなどの助言)、「第4、5学年における継続的な研究活動」(4年生から指導教員のもとで研究活動を開始し、5年生の卒業研究まで2年間継続して研究を行う)を実施しています。また、「全国高専プログラミングコンテスト」に参加する学生を積極的にサポートしています。